令和３年度第１回香川県教育センター運営協議会　議事録

【日　時】　令和３年７月２１日（水）10：00～11：30
【場　所】　香川県教育センター　５階大研修室
【出席者】　委員８名（欠席３名）、教育センター所長外４名
　　※傍聴人　なし
【議事概要】令和３年度事業について
【主な質疑応答】
〇組織・予算について
　質疑なし
〇調査研究事業について
　質疑なし
〇教職員研修事業について
　質疑なし
〇教育相談事業について

委　員	相談対象について、今年度は中学校に関する相談が多い原因をどのように推察されているか。
事務局	ここ数年は年間では高等学校に関する相談が一番多かったが、今年度６月までの統計では中学校に関する相談が多い。原因については、軽々に述べることはできないが、どの相談にも丁寧に話を聞きながら対応したい。
委　員	いじめの相談については、学校に相談しても思うような解決につながらないという相談が多かったということだが、これは資料の円グラフにある件数についてか。
事務局	グラフに挙げたのは、いじめを主訴とした相談であると判断したものである。相談者の話を聞き、何に一番困って相談してきているかという点を主訴とする。例えば、いじめに端を発しているが学校の先生とのコミュニケーションに関することであれば、主訴は学校・教師関係となる。背景にいじめが関係していると思われる相談はここに出ている数よりも多いと考えている。
委　員	令和３年４月から６月までの相談で、不登校の件数が前年度と比べて増加したということだが、学校現場の方で不登校の生徒が増えているという傾向はあるのか。
事務局	こちらで把握できるのは、教育センターに相談した方の統計であり、学校現場の傾向はお答えできかねる。
委　員	不登校と学校・教師関係の相談が増えているということだが、昨年から発生しているコロナの影響が今出ているのか。コロナ禍との関係性をどのように考えているか。昨年は臨時休業をしたが、今もやはり不安があるということが不登校と複雑に絡み合うとか、学校の中でもコミュニケーションが取りにくいという影響も数字の増加につながっているのか。

事務局	軽々なことは申し上げられないが、昨年度の不登校の相談件数の大きな特徴として年度の終わりに多くあり、そのまま４月に入った印象がある。４月に入ってもコロナに関して県全体としてひっ迫した状況にあり、大きな不安を抱えていたり、その不安が不満に変わったりする相談はあったのではないか、とは思っているが、データとして出せるものはない。
委　員	LGBT 関係の相談はあるか。
事務局	相談の有無は申し上げられないが、LGBT に関する教育の機会や必要性が現場で増えてきていると感じており、私共も２か月に１回の電話相談員の研修や、我々指導主事の勉強会を行っている。人権・同和教育課の指導主事の方や、専門機関の方に話を伺い、相談があった場合には適切な対応ができるように構えているところである。LGBT に限らず、昨今不登校や交友関係に関して子供たちの背景が非常に複雑になっており、困難なケースについては来所相談等で臨床心理士が適切な相談を行う、あるいは、学校にコンサルテーションを行う際には臨床心理士の専門的な知見を受けながら支援を行うこととし、対応に注意しながら取り組んでいるところである。

〇カリキュラムセンター事業について

委　員	要覧の中にカリキュラムセンターの施設開放事業があるが、土曜日にもかなりの件数の貸し出しがあったのか。
事務局	教育ライブラリーの訪問者等はあまり多くないが、研修室等の貸し出しについて頻度は高かった。

〇その他について

委　員	教員の免許更新制度については、現場の先生方にとって非常に負担になっている。教育センターとして免許更新の必要がないと思わせる研修を積み重ねられたらと思う。そのために教育センターが果たす役割はとても大きいと思う。
委　員	免許更新講習は大学側の責任もあると思う。今年度もオンラインで免許更新講習をできるように講座を増やしながら行っている。免許更新講習がなくなっても、何らかの代わりの研修は必要となるので、大学の方もセンターと連携を取りながら充実を図っていきたい。
委　員	教員に対する魅力、仕事としての魅力が今はどうなっているのか。教育センターがいろいろと工夫する中で、生徒の方から魅力的な仕事に見えるような、先生がいきいきと働けるような環境を作ってもらえればと思っている。
委　員	今、大学の方にもセンターの指導主事が客員としてやって来て、魅力的な話をしてもらうなど、いろいろな形で連携を図りながら教員の魅力を直接学生に語ってもらっている。
委　員	幼稚園やこども園ではオンライン研修を受ける設備が整っておらず、市役所や近くの公民館に集まって研修に参加している。今後、幼稚園・こども園にも、

	オンラインの研修を受けられるような設備を整えてもらえるよう働きかけていきたいので、幼稚園・こども園の職員が参加できるようにICTを活用した研修などもしていただけたらと思う。
委　員	中堅研修や初任者研修等で、特別支援学校の教員と高校の教員が同じ場所で研修したり情報交換したりする場を少しでも増やしてほしい。 また、県立高校の先生が特別支援学校に研修に来る機会についても設けていただきたい。
委　員	教育相談事業が非常に気になった。具体的な相談内容は教えてもらえないと思うが、学校・教師関係の相談では、保護者や生徒は感情的になっている感じか。
事務局	どのような相談であっても、まずは相談者の言葉を安定して受け止められるスキルを身に付けるようスタッフは日々研鑽している。まずは受け止めて、じっくり話を聞き、その人の気持ちに寄り添い、最後は相談してよかったと思っていただけるように日々対応に努めているので、どうか安心してご相談いただけたらと思う。
委　員	授業でどのようにタブレット端末を使っているか興味深い。コロナ禍で学校行事自体も減り、授業参観も少なくなっている中、親が学校で授業を見る環境が最近少なくなってきた。子供たちがどのような授業を受けているか、保護者が疑問に思っていると聞くので、その点について教えてほしい。
事務局	この１学期間を見て感じたことだけを話させていただく。ICTを大いに活用しているところもあれば、まだまだなところもあり、地域によって差が大きいと感じている。私たちが研修サポートとして学校を訪問したとき、先生方が集まって研修を行う際には、ICT活用のメリットとして４つほど、提案している。１つ目は、一人一人のタブレットの画面を全部前に映して、子供たちがお互いの意見を共有しあうという「共有機能」、２つ目は、画像や動画をとって客観的に自分を見たり、データを残して自分の成長を見たりといった「記録保存機能」。３つ目は、個人学習を成立させるための情報収集や辞書を用いた「検索機能」、４つ目として、プレゼンテーション資料の作成や動画・画像の編集といった「編集機能」。これら４つの機能を中心に扱いながら研修を行っている。ただ、学校に導入しているソフトやOSが市町でバラバラで、なかなか県を挙げた一斉の研修が難しい。
委　員	今年度から私の小学校では授業参観や運動会をオンライン配信した。また、今年度から大きく変わったことが、保護者が朝行う欠席や遅刻の連絡をスマートフォンから入力するようになった。教室で行っていた健康観察もデータで全部集約されるようになり、保護者の協力もあって、デジタル化している部分が実際あると感じている。
委　員	コロナ禍に対応し、教育センターでも、今年度は研修を中止せずにオンラインやオンデマンドに変更して実施していることはありがたく思っている。コロナ禍が収束した時には、従来の対面の研修とオンラインの研修のいいところをと

	ったハイブリット型の研修になるのではと予想しているが、ぜひ対面の研修を多く取り入れていただきたい。 また、高校の場合は来年度から新学習指導要領が導入され、その対応についての研修もぜひお願いしたい。 さらに、高校にも ICT 機器が導入はされたが、最初の一歩が踏み込みづらいところがあるようだ。ICT を活用した授業研究に、センターとして力を入れてほしい。
委　員	学校現場で困っていることとして、1 人 1 台端末の活用である。ほぼ 100%の市町で導入されているが、先ほどの話にあったとおり、市町でハード、ソフトが全く違うという状況の中でやっていかなければならないことが課題となっている。令和２年度のセンターの研究発表の資料にもあるが、ハード、ソフトの異なる中で、ICT 活用における核の部分をきちっとおさえてもらっていることがありがたい。学校現場は細かなところでいろいろ悩んでいる。今後とも、こういった情報をぜひ積極的に提供していただけたらありがたい。